

絵本の現在—普遍性と現代性を考える

今田 由香

ロングセラーとなった絵本の多くは、普遍的な魅力を備えています。しかし、現代の読者にとっては古い内容や表現が含まれていることもあります。新しい絵本は、現代の意識や最新の知見を反映して作られますが、未来の読者も必要とする作品になっているのでしょうか。普遍性と現代性という観点から、絵本と出版や読書について考えます。

0. プロローグ 同じ絵本なのか、違う絵本なのか

翻訳される、翻訳者や出版社が変わる。異なる判型で作品が出版される。キャラクターの魅力を活かして、別の作者によって新しい作品が作られる。長く、多くの人に読まれてきた絵本のなかには、さまざまな形で、読者に届けられている作品があります。

1. 新しい知見を反映して改訂された絵本

新しい知見を反映して、内容を一部変えて出版されることになった絵本があります。絵本の改訂、旧版と新版の読書について考えます。

2. 子どもに手渡すべきではないと大人に指摘されたことがある絵本

子どもが読むに相応しくないという大人の見解を反映して、図書館での貸出が禁止された絵本や、出版後に作品が回収された絵本の例を見ていきます。

3. 社会の変化にともない、子どもに手渡す絵本としてキャラクターの描き方が再検討された作品、再評価された作品

Barbara Bader は、「絵本は歴史の記録である」(*American picture books from Noah's ark to the beast within*. Macmillan, 1976.)と述べました。たしかに、子どもの日常を描くことが多い絵本には、作品が作られた時代の考え方や文化が反映されることがあります。このことを踏まえて、キャラクターの描き方と作品の評価について考えます。

4. 子どもの権利と知る自由

子どもの権利、知ることや読書の自由について確認します。

5. 21世紀に生まれた絵本の現代性と普遍性

現代の絵本に注目します。いま、多くの人々に読まれている絵本を、未来の読者はどのように読むのでしょうか。2001年以降に出版された絵本を、現代性と普遍性という観点から考えます。

6. エピローグ 絵本の出版と読書、いまとこれから